

令和4年6月25日
風早北部地域ふるさと協議会
防犯防災部長

ご挨拶

第2回防災活動に関する意見交換会にご参集いただき、誠にありがとうございます。

前回ご案内しました「当風早北部地域が抱えます防災面での課題とそれに対して当会が今期推奨する防災活動」につきまして、前回ご出席の皆さまにはご理解を頂き、組織によっては、既に代表の会長、理事長様、あるいはその他の役員の方々に共有をして頂いたものと理解します。もしも未だ共有するに至っていない団体におかれましても、今後広く関係者にご案内頂き、大きな災害が起きてしまう前に必要な対応や活動をお願いしたいと存じます。

先月29日(日)に、当会主催により開催しました「地域づくり講演会」につきましては、同会にご参加の方は既にご存じとは思いますが、ご講演頂いた牧野篤東大大学院教授のお話には、地域活動の成功例を、そのご苦勞話と共に聴講させて頂きました。成功例は確かに華々しいものがあり、そうした点は非常にうらやましい限りですが、その裏側では、中々うまくいかないことも多いらしく、そうした困難を覚悟して取り組むこと、継続して取り組む姿が大事であると感じました。その苦勞からどうしても目を背けたい、自分は関わりたくない、といった負の感情が大きいと、中々に事は前進しません。

防災活動面で申し上げますと、大きな災害が起きてから行動するのは遅すぎるので、日ごろの備えが大事、との一般的な総論に異論を抱く方はほとんどおられないものと思います。但し、そのために自分が率先して地域のために行動するとなると、自分の生活や仕事などがそれを邪魔してしまい、結局は誰かに委ねざるを得なくなるわけです。先日亡くなられたお笑いタレントの上島竜平さんが所属のダチョウ倶楽部の有名なギャグ「どうぞどうぞ」と連想させるように、地域活動を自ら率先してはやりたくない、他の方で「どうぞどうぞ」の声がそこかしこから聞こえてくるのは私だけでしょうか？ 無論、未経験なこと、知らないことには手は上げ難いとの本音もごさいますが、あえて防災面では、そうした障害を振り払って「皆でやっていきましょう！」との姿勢が本当に大事です。自分は関係ないとの無関心が街中に蔓延することで、その町内は遅かれ早かれ、機能不全の状態に陥ることになります。残念ながら既にそうなりつつある団体もこの地域には少なくありません（本日ご臨席の団体がそうではないことは確かです）。

改めて自分の周囲を見回し、皆さんからの防災活動にチャレンジする姿勢を大いに期待いたします。本日の会議ご参加に改めて感謝申し上げます。

《以上》